

## 上庄をよくするつどい

### 1 基本データ

- 地区名 上庄地区
- 地区人口 3, 883人
- 地区世帯数 1, 057世帯  
(H28.1.1 現在)
- 地区面積 28, 471㎡
- 地区の沿革

上庄地区は、32の集落（行政区）で構成されており、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6<sup>キロメートル</sup>、南北約12<sup>キロメートル</sup>ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



- 実施主体 上庄をよくするつどい

### 2 現状と課題

地区の特性として、学校区が当地区と同じであり、保育園、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1園（校）ずつであること、また、以前JAが単独で存続していたことなどから他地区にはない地域の特異性や地域の繋がりがあり、郷土愛も強い。

しかしながら、人口の微減、少子高齢化は同地区も少しずつ進んできており、各集落の活力や地域全体の活力も停滞化してきている。

こうしたことから、平成24年度から、当地区では、地域住民自らが地域を今一度見つめ直し、地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高めようと、地域の活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととし、麻那姫伝説継承事業に取り組んでいる。

平成24年度は麻那姫音頭の復活や麻那姫像の展示庫設置に取り組み、平成25年度は、麻那姫感謝祭の開催をはじめ、伝説の紙芝居作成、また、ヨサコイ麻那姫の作成など、麻那姫伝説に纏わる多様な事業に取り組み、地区住民への周知と継承の意識付けを図った。昨年度は、この麻那姫伝説継承事業を継続し、地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化を図るため、麻那姫感謝祭の継続や麻那姫街道の案内看板設置などに取り組んだ。

今年度も麻那姫感謝祭やスポーツ等のイベントを更に盛大とするため、キャラクター「まなちゃん」の着ぐるみやスポーツ横断幕の整備し、地域の賑わいの創出に寄与した。

### 3 事業の内容

麻那姫伝説継承事業は、本年度で4年目となり、地区住民には、定着しつつあり、各種広報により伝説の周知などが図れてきた。

本年度は、麻那姫感謝祭の充実に加え、地域内で開催される各種イベントでの啓発を更に充実するため、子どもたちに人気となるマスコットキャラクター「まなちゃん」の着ぐるみや起き上がりバルーンを購入した。また、スポーツ振興が盛んな土地柄を生かし、各種スポーツイベントで啓発できる横断幕を作成した。横断幕に掲載する標語は、地区内から募集し、審査を経て決定した。昨年度同様、各種団体連絡協議会や実行委員会を立ち上げ、以下の事業に取り組んだ。

## (1) 麻那姫感謝祭の開催

開催日：10月4日（日） 午前10時30分～

（敬老会との同時開催）

参加者：約657名

麻那姫伝説を後世に継承し、麻那姫の遺徳を讃え、秋の収穫に感謝するため、平成25年度から始まった麻那姫感謝祭を今年度も実施した。

今年度は、6月から実行委員会を立ち上げ、具体的な事業内容を検討していった。感謝祭当日は、地区敬老会も同時開催されることもあり、携わるスタッフが両事業を共有できるように合同実行委員会を立ち上げた。また、詳細な内容や部門別に検討をしていくための運営委員会や専門部会も立ち上げ、当日までに会議の他、祭りのための準備として、のぼりの設置など多くの作業に取り組んだ。

のぼり旗設置の様子



恒例となる保育園児によるヨサコイ麻那姫の披露や、大勢で輪になって踊る麻那姫音頭などのプログラムを実施した。

ヨサコイ麻那姫の様子



輪になって踊る麻那姫音頭の様子



## (2) 「まなちゃん」の着ぐるみの購入

ご当地キャラクターとして子どもたちに愛されるよう着ぐるみを購入した。

この着ぐるみは、子どもたちが大好きなポア生地（縫いぐるみのような生地）を多く用いて作成した。

麻那姫感謝祭の開催式で、「まなちゃん誕生」と題して初お披露目を行い、その後、同イベントにおいて、会場のあちらこちらで子どもたちと交流し人気を集めていた。

まなちゃん誕生の様子





### (3) 「まなちゃん」バルーンの購入

着ぐるみの購入と同様、こどもたちに愛されるキャラクターとなるよう、起き上がりこぼし型のバルーンを購入した。

体育大会でも活用できるよう、各チームカラーに合わせた5色のバルーンとした。

同大会陸上競技の開会式での初披露を予定していたが、残念ながら、同大会が雨天で中止となったため、麻那姫感謝祭の開催式での初披露となった。

起き上がりバルーン設置の様子



### (4) 麻那姫伝説劇用のマイク購入

麻那姫感謝祭では、例年、上庄保育園の園児による伝説の劇が披露されるが、昨年の発表の際にセリフが聞こえ難いという意見をいただいた。

この反省点を改善するために、主演・助演の園児に用ピンマイクを2台購入し、既存と合わせて3台とし、会場内全域にセリフが聞こえるよう配慮し、高齢者も鑑賞しやすい環境を整備した。

ピンマイク2台



ピンマイクを使った劇の様子



### (5) 麻那姫マラソンへの協賛

昨年度から、上庄小学校のマラソン大会に協賛し、大会名を麻那姫マラソンと名づけた。

初めての参加となる1年生にはマスコット人形を参加賞とし、また、入賞者には賞状やメダルを贈呈することで、麻那姫伝説を周知し、継承を図った。

麻那姫マラソンの様子



表彰式の様子



この地に住み続けたいくなるよう、これからも地区住民が協力し事業を実施していけるよう地域内の各界各層の団体が連携し取り組んでいく。

#### 4 事業の成果

4年間継続して麻那姫伝説継承事業に取り組んだことで、上庄地区に住んでいながら麻那姫伝説を知らなかった人も、事業に参加することにより、事業の意義と伝説を継承していくという意識付けができたと思われる。麻那姫感謝祭は年々内容を充実させ、地区内の来場者で賑わい、住民同士の交流の場を提供することが出来た。

また、感謝祭以外の各種イベントにおいてもキャラクターを用いた着ぐるみやバルーンなどを活用し、麻那姫伝説の周知による継承ができるようになった。

年間を通じて麻那姫伝説を継承することで、地区の子どもからお年寄りまでが関わりを持ち、触れることができ、地元上庄を愛する気持ちと誇りに思う意識が芽生えたのではないかとと思われる。

#### 5 今後の展望

今後は、感謝祭をさらに充実させて実施することで、来館者を増やしていき、地域内の活性化はもとより、地域外からも来場してもらえるよう取り組む必要がある。

子どもたちが上庄地区に愛着を持ち、将来は